REPORT 3

地域コミュニティとの関わり

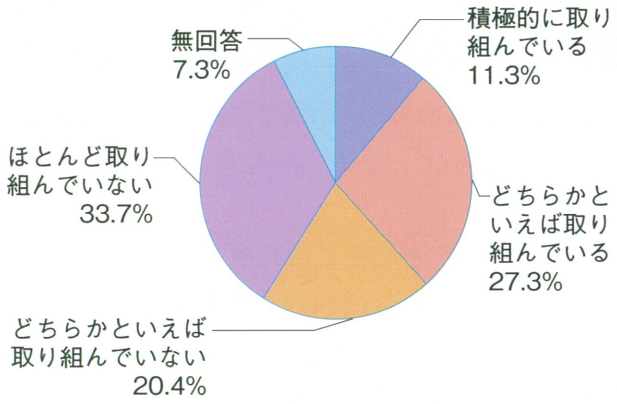
- 地域社会活動に能動的に取り組む寺院は約4割
- 小規模寺院では地域活動に取り組む余裕はない？

宗教社会学の大谷栄一は、編著『叢書 宗教とソーシャル・キャピタル 2 地域社会をつくる宗教』の「まえがき」に、「地域社会における人々のつながり（関係性、共同性）の創造や再生を考えるうえで、宗教のソーシャル・キャピタル形成力という視点が有効であることを示したい。」と書いている。ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）とは、信頼や規範などによって結ばれた社会的ネットワークのことを言う。

平成24年度宗勢調査では、「あなたの寺院では地域社会における住民との交流（地域コミュニティ）に取り組んでいますか」という設問で「地域社会との関わり」について回答を求めた。以下、その取り組みの現状について分析する。

1. 寺院と地域コミュニティとの関わり

地域社会で住民交流に取り組んでいるか　全体集計（グラフ3-①）



「積極的に取り組んでいる」、「どちらかと言えば取り組んでいる」の２つの選択肢を合わせても38.6％にとどまる。

2. 地域コミュニティ活動 ― 取り組み度の差は？

では、地域コミュニティ活動への取り組み度において、その積極性の高低を分けるものはいったい何なのだろうか。ここでは、「檀家数」との関連から考察してみたい。それらの関連質問とのクロス集計の結果は以下の通りである。

檀家戸数との相関関係

檀家数 × 地域コミュニティ活動への取り組み度　クロス集計（表3-②）

檀家戸数	積極的に取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	ほとんど取り組んでいない
な　し	4.2%	10.9%	12.7%	72.1%
1～ 10戸	8.3%	18.5%	14.6%	58.5%
11～ 30戸	9.7%	23.7%	20.5%	45.9%
31～ 50戸	10.8%	25.8%	24.0%	39.2%
51～100戸	13.0%	29.0%	23.9%	33.9%
101～150戸	12.8%	33.6%	25.4%	28.0%
151～200戸	11.0%	34.3%	21.7%	32.8%
201～300戸	13.6%	36.1%	23.5%	26.7%
301～400戸	14.3%	40.8%	19.7%	25.1%
401～500戸	20.5%	28.9%	25.2%	25.2%
501戸以上※	24.4%	38.3%	15.7%	21.3%
全体合計	12.2%	29.4%	21.9%	36.3%

檀家数100戸以下では、「ほとんど取り組んでいない」がモード（最頻値）であるが、その数値は、檀家戸数が増加するに従って減少し、101戸以上では、「どちらかと言えば取り組んでいる」がモードとなる（表中**赤文字**）。

しかし、「ほとんど取り組んでいない」と「どちらかといえば取り組んでいない」の合計と、「積極的に取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」との合計を比較してみると、301戸以上にならないと、積極派が消極派を上回らない（「401戸～500戸」では、僅かながら消極派の方が多くなってしまっている）（表中 ■ ）。

総じて寺院規模が大きくなればなるほど、地域コミュニティ活動への取り組みの積極性が高まる傾向が明らかではあるが、人口減少時代に於いて「宗教のソーシャル・キャピタル形成力」が今後ますます重要となるであろうことを鑑みると、十分な数字とは言い難いところであろう。

檀家数の少ない寺院では、地域コミュニティの活動に取り組む余裕がないのであろうし、代務寺院で、住職がその寺院に居住していない事例なども多いであろうことが推測され、止むを得ないと言えようか。

檀家数の多い寺院は、地域住民との関係を持つ機会が増えようし、経済的な余裕も持てるため、地域コミュニティ活動に取り組みやすくなるのであろう。

となると、地域コミュニティ活動への取り組みを活発化して行くためにも、ある程度の寺院規模の確保が要請されるところであると言えるのではなかろうか。